



FDH119

(第3回)

平成17年常陸大宮市消防出初式

1月10日、町村合併後初の消防出初式が、辰ノ口地内にある「おおみや消防広場」において、消防関係者約1,200人が参加して開催されました。

式典は、団員による入場行進ではじまり、人員・姿勢・服装の点検が行われ、災害に対する備えと消防精神の高揚が図られました。また、消防功労者等へ感謝状や表彰状が贈られた後、市長のあいさつ、来賓の祝辞をいただき、今年1年の安全を誓いました。



▲団員入場行進



▲市長等による人員・姿勢・服装点検



▲永年勤続功労者表彰

出初式の起源

出初式の起源は、遠く万治2年(1659)江戸で行われたときまでさかのぼります。明暦3年(1657)に発生した大火を契機として、正月4日、時の老中稲葉伊代守正則が、將軍徳川定綱臨席のもと、定火消総勢4隊を率いて上野東照宮前で出初を行い氣勢をあげたことが、当時焼け野原のなかであって苦しい復興作業にともすれば絶望的な状態にあった市民に大きな希望と信頼を与えました。

ついで、いろは四八組と本所深川一六組の江戸町火消が創設されると、享保4年(1719)、町火消も出初をまねるようになりました。まといを先頭に木やりをうたい、町奉行をはじめとし火消与力、町年寄等へ年賀の挨拶廻りをしました。これは定火消のそれと区別して初出と呼ばれ、元旦の「江戸の華」とうたわれました。

明治維新以後、いったんは中断されていましたが、明治8年(1875)1月4日、第1回東京警視庁消防出初式が警視庁連兵場で挙行され、出初式が復活しました。

時代が進み、昭和12年(1937)6月、内務省令により消防組操典等が公布され、軍隊様式に全国統一される礼式や点検が行われるようになっていきました。



平成16年中 火災・救急件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
火災件数	1	4	8	3		1	2	4	1		2	1	27
救急件数	145	114	160	131	117	116	134	132	113	131	129	141	1,563